平成 21〜22 年(2009~2010) 個展を前提とした作品制作研究(18)

第18回個展·佐喜眞美術館 in Ginowan

金城 満

1. 展覧会名:

金城満展2009 -Triple Sugar「ぬけがらの音」-

2. 趣旨:

1609年薩摩侵攻から400年。それは沖縄の魂にとって何だったのか。金城満氏が美術の言葉で表現しました。今回の企画は、「痕跡のあと」(1992年 11月)と「Sweet400」(2009年1月)、二つのシリーズで構成されています。ことば、音、闇など、共通のテーマを持つ両シリーズを比較展示し、

さらに最新作 -Triple sugar- 「ぬ けがらの音」からは軋む残響がこだまして、沖縄の「今」をのぞき込むようでもあります。 (美術館展示会案内より)

3. 材料技法

ナンピ材、ニカワ、顔料、箔、テンペラ、油彩

4. 展覧会場

佐喜真美術館 〒901-2204 沖縄県宜野湾市上原 358

5. 展覧会期

2009年10月07日(水)~2010年01月18日(月) 休み:火曜日、年末年始休館※85日間

6. 開館時間

 $09:30\sim 17:00$

7. 観覧料金

美術館入館料(大人700円 中高600円 小人300円)

8. 企画

佐喜真美術館

9. 作品リスト (pp. 5-30)

No.	作品名	サイズ(cm)	材 料	制作 年月	備考
141	シリーズ「痕跡のあと」!	83.0 x 116.0 cm	ナンピ材、ニカワ、顔料、箔、	1992 年	第 10 回個展
			テンペラ、油彩	2009 年	第 18 回個展
142	シリーズ「痕跡のあと」Ⅱ	83.0 x 116.0 cm	ナンピ材、ニカワ、顔料、箔、	1992 年	第 10 回個展
			テンペラ、油彩	2009年	第 18 回個展
143	シリーズ「痕跡のあと」Ⅲ	99.0 x 136.0 cm	ナンピ材、ニカワ、顔料、箔、	1992 年	第 10 回個展
			テンペラ、油彩	2009年	第 18 回個展
144	シリーズ「痕跡のあと」Ⅳ	116.0 x 136.0 cm	ナンピ材、ニカワ、顔料、箔、	1992 年	第 10 回個展
			テンペラ、油彩	2009年	第 18 回個展
145	シリーズ「痕跡のあと」Ⅴ	116.0 x 136.0 cm	ナンピ材、ニカワ、顔料、箔、	1992年	第 10 回個展
			テンペラ、油彩	2009年	第 18 回個展
146	シリーズ「痕跡のあと」Ⅵ	116.0 x 136.0 cm	ナンピ材、ニカワ、顔料、箔、	1992 年	第 10 回個展
			テンペラ、油彩	2009年	第 18 回個展
147	シリーズ「痕跡のあと」Ⅶ	116.0 x 136.0 cm	ナンピ材、ニカワ、顔料、箔、	1992 年	第 10 回個展
			テンペラ、油彩	2009年	第 18 回個展
148	シリーズ「痕跡のあと」Ⅷ	133.0 x 406.0 cm	杉材、ニカワ、顔料、箔、テン	1992 年	第 10 回個展
			ペラ、油彩	2009 年	第 18 回個展
271	Sweet400-blue sugar-	116.0 x 180.0 cm	顔料、ニカワ、箔、油彩、板	2009年	第 17 回個展
				2009年	第 18 回個展
272	Sweet400-red sugar-	116.0 x 180.1 cm	顔料、ニカワ、箔、油彩、板	2009年	第 17 回個展
				2009年	第 18 回個展

273	Sweet400-double sugar-	210.0 x 360.0 cm	顔料、ニカワ、箔、油彩、板	2009 年	第 17 回個展
				2009 年	第 18 回個展
274	Sweet400-brown sugar-	128.0 x 180.0 cm	顔料、ニカワ、箔、油彩、板	2009 年	第 17 回個展
				2009 年	第 18 回個展
275	Sweet400-sugar coat1-	60.0 x 90.0 cm	顔料、ニカワ、箔、油彩、板	2009 年	第 17 回個展
				2009 年	第 18 回個展
276	Sweet400-sugar coat2-	60.0 x 90.0 cm	顔料、ニカワ、箔、油彩、板	2009 年	第 17 回個展
				2009 年	第 18 回個展
277	Sweet400-sugar house1-	60.0 x 90.0 cm	顔料、ニカワ、箔、油彩、板	2009年	第 17 回個展
				2009 年	第 18 回個展
278	Sweet400-sugar house2-	60.0 x 90.0 cm	顔料、ニカワ、箔、油彩、板	2009 年	第 17 回個展
				2009 年	第 18 回個展
279	Sweet400-sugar house3-	60.0 x 90.0 cm	顔料、ニカワ、箔、油彩、板	2009 年	第 17 回個展
				2009年	第 18 回個展
				2009 年	第 17 回個展
280	Sweet400-Triple sugar-	233.0 x 480.0 cm	顔料、ニカワ、箔、油彩、板	2009 年	第 18 回個展

10. **関連イベント** (pp. 32-33)

アーティスト・トーク

日時=2009年11月23日(月)16:00~

会場=佐喜眞美術館

出演=金城満

- 11. 考察(報道等資料) (pp. 34-40)
 - (1)沖縄タイムス 2009.11.06 10 月美術月評/言葉の異物で緊張感 (美術批評家、沖縄県立芸術大学講師/土屋誠一)
 - (2)沖縄タイムス 2009. 11. 23 展評/生の具体性体験させる (グループ Z0 同人/山田 高)
 - (3)琉球新報 2009. 12. 16 展評/時空超え心の目で対話 (近代沖縄洋楽受容史研究、沖縄県立芸術大学講師/三島わかな)
 - (4)琉球新報 2009. 12. 22 あしゃぎ/「甘いかゆみ」金城満
 - (5)沖縄タイムス 2009. 12. 28 年末回顧県内⑥美術 (沖縄県立芸術大学非常勤講師/佐藤文彦)
 - (6)琉球新報 2010. 11. 13 12 月美術月評/苦闘する作家の生気 (沖縄県立芸術大学教授/田中睦治)
 - (7)信濃毎日新聞 2010. 01. 29 金城満さん抽象画「Sweet 400」浮かぶ沖縄の閉塞感

金城満展 2009 —Triple sugar—「ぬけがらの音」



- Triple sugar - 「ぬけがらの音」 233×480cm 2009 年 顔料、ニカワ、铬、油彩、板

经喜真美術館

金城満展 2009 -Triple sugar-「ぬけがらの音」

1609年薩摩侵攻から400年。それは沖縄の魂にとって何だったのか。金城満 氏が美術の言葉で表現しました。今回の企画は、「痕跡のあと」(1992年11月) と「Sweet400」(2009年1月)、二つのシリーズで構成されています。ことば、音、 闇など、共通のテーマを持つ両シリーズを比較展示し、さらに最新作 - Triple sugar-「ぬけがらの音」からは軋む残響がこだまして、沖縄の「今」をのぞき込むようでも あります。

10/7 水 $$ $\phantom{-$



〒901-2204 沖縄県宜野湾市上原 358 TEL 098-893-5737 FAX 098-893-6948 入館料大人700円中高600円小人300円

经喜真美做館

http://sakima.jp





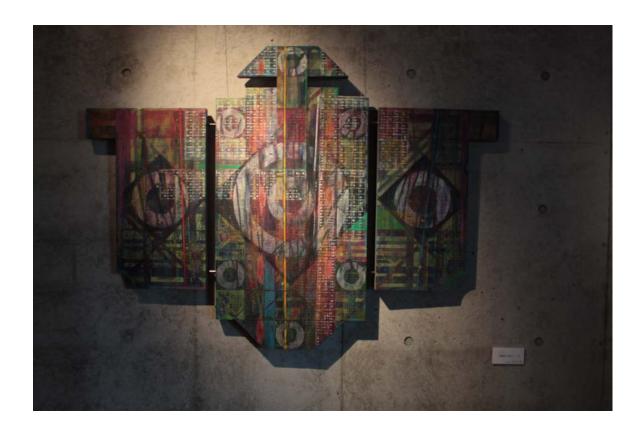




















SWEET400-TRIPLE SUGAR-「ぬけがらの音」

各233×480cm 2009年顔料、 ニカワ、箔、油彩、板



























作品部分









右ページの曲「Triple sugar」は同タイトルの絵画作品の音版として作曲した。 繰り返される工工四に、

バッハのピアノ曲ゴールドベルク変奏曲の15番と21番の右手部分を変化させて重ね、 さらにラジオの周波数を探る音として、2009年の沖縄にあるノイズを幾重にも重ねた曲である。

http://homepage.mac.com/mkingmking/

「金城満の仕事」で検索



原爆の光によって壁に出来たシルエットの人影 一瞬にして人体は気化し 影だけがそこに居た人を照らし出す 感光した歴史

<u>この関係</u>の変異からみえてくるもの

光と影 ポジとネガ そして 遠く離れたところ

網膜の視神経が入ってくる部分には 光を感じない盲点がある 盲点とは言語上の意味だけでなく 本当に存在している身体の点 盲点は光を感じるために必要な点

この点をのばして考える 盲点から盲線、盲線から盲面

盲点が動くと盲線になる 線の形は点の動きで決まる

盲面は盲線に囲まれて出来る場合と 盲線のスライドで出来る 始点である盲点が光を感じないなら 闇である

言い換えると、闇点、闇線、闇面である

歴史に光をあてる・・と言うが 歴史に闇をあてる・・とは言わない この段階で片手落ちの見方が生じている

闇は、単に負の面を強調した見方ではなく 光と対をなした同時性の見方だろう

光も闇も歴史に潜り込む浸透性があり 光は盲点を、破線の盲線に変え 破線の盲線はやがてランダムな島を形成する

島影を俯瞰していく感覚がアートなのか 島影を渡っていくのが歴史なのか

今は浮遊感の強い政治情勢であり 今日、明日にも 島影が変異させられるニュースの時代である

嫌な予感と良い兆しが 同時に起こっている・・・

2009/12/09

2009/10/07~2010/01/18

第 18 回個展・佐喜眞美術館 in Ginowan **金城満展 2009**

-Triple Sugar「ぬけがらの音」-プレゼンテーションレジュメ

日時: 2009年11月23日(月)14:00~

会場:佐喜眞美術館

使用ソフト: Keynote

時間:40分(映像含む)

第 17 回個展・画廊沖縄での Sweet400 シリーズと、 関連しての展覧会のためプレゼンテーションレジュメも 重複している。従ってその部分は省略して、追加部分の みの記述とした。

1. 本日の内容

(重複のため省略)

2. 起請文

(重複のため省略)

3. 砂糖について

(重複のため省略)

砂糖の甘さと沖縄の状況を重ね合わせて 以下 Sweet400 シリーズに追加部分

・・・との思いから半年後、次の事実があることを知った。

重い病気から来るかゆみがある

- (1)がん等が原因で全身に強いかゆみを感じる場合がある。
- (2)その原因を探っていくと・・・
- (3)正体は進行したがん患者の痛みを抑えるためなどに使用される「モルヒネ」
- (4) このモルヒネによく似た物質 「 β エンドルフィン」が体内でたくさん作られていたためにかゆみを感じる。
- (5) βエンドルフィンは「おいしいものを食べる」「熱いお風呂に入る」「長距離マラソンを走る」など、快感を感じた時や、苦しみを和らげる必要がある時に脳で作られる「快楽物質」。

(6) 一体なぜ、この物質がかゆみにつながるのか?

(7)脳は体内に大きな病気があると、快楽物質である β エンドルフィンを大量に放出してストレスを和らげようとする。

(8)しかし、そのままではピンチを知らせるシグナルが脳に届かない恐れがある。

(9)実は、かゆみを伝える神経にはβエンドルフィンを受け取る受容体がついていて、 異変をかゆみとして知らせる。

(10)かゆみは重大な病気があることを教えてくれる、貴重なシグナルだった!

4. 作品の構成要素

(重複のため省略)

5. 制作のプロセス

(重複のため省略)

6. その他の展開

(重複のため省略)

んな人間が異物として混ざっ

いるのも、美術月評として

品の中から、そのような可能 性」は開かれるかどうか。残念

ながら、ここに並んだ公募作

性が垣間見える作品を、見い

作することの第一歩ではなか まなざしを向けることが、制 のような日常に対して疑義の ほかならないからであり、そ ちに制度化されているものに な日常とそが、意識しないう さに私たちを取り巻く散文的 ったほうがいい。なぜなら、ま

現在を生きる美術作家とし

譜面上に、道路の通行指示ら

不された

最新作は、

工工四の

にすことはできなかった。

そういう意味では、同館の

の知覚化に注意

評者の中に
一人ぐらいは、
そ

いとは言い得ない。ただ、

ら美術における「将来の可能

かりで、沖縄の美術状況に詳

し県立芸大に赴任してきたば こ思う。 私自身、 今年になっ

があることは認めざるを得な

。けれども、果たしてここか

した催しに対して一定の需要

取り巻く状況を見ていきたい

枠組みを当てにして作品を発

う。逆に言えば、既成の権威や ことからしか始まらないだろ

素材とし、灰色の単色でかた 展会場には、プラスチックを

どられた布団やソファのよう

かれることはないということ 表したところで、可能性が開

な物体が床に設置され、壁面

には茫洋とした光景らしきも

らば、結局のところ、自らを自 術作品を生み出そうと望むな

かもしれない。「eyeli

の心意気だけでも評価すべき

d」(目蓋)と題されたこの個

した表現者として自覚する

術」と呼ぶのだから。

将来の可能性を切り開く美

のをこそ、私たちはそれを「美 いて、その存在意義を持つも

作家自身が自腹を切って借り 県民ギャラリーを、恐らくは

たのであろう「森光理展」(6

言葉の異物で緊張感

金城満展

12日)は、その表現者として

物」として存在することにお

な日常に対して、文字通り「異

は悪くはないだろう。散文的

屋誠



<10月>

75年神奈川県生まれ。 摩美術大学大学院修了。美 より県立芸術大学講師 術批評家。2009年4月 多

館で開催された「平成21年度

沖縄県芸術文化祭」の展示

だ。例えば、県立博物館・美術

部門(10~18日)は、既に38回

を迎えたとのことで、こう

つちや・せいいち

沖縄美術史の基礎に 森光理展「eyelid」より会場風景

も呼ぶべきものを作品におい する微細な感覚の震え、とで るに作家は、日常の中で経験 っているわけである。想像す 設的に表したような体裁をと の中に、日常の室内空間を仮 ている。いわば、白い展示空間 のを示すイメージが掛けられ

し再現したかったのだろう。

船化することには、注意を払



sugar

金城満「sweet 400-coat-1」



トグア 人の女」(右)、 名渡山愛順展」より「 「裸のウ

撃を伝える鎌倉秀太郎展 日~1月18日)であろう。展 館での「金城満展」(10月7 試みていたのは、佐喜眞美術 て突出した表現を見せようと

品を一義的に理解することを

拒むような緊張感を、絵画に

ところで、制度化された「美 術」を乗り越え得るものでは

展示空間に、日常を対置した ったか。非日常的な場である

ではなく、彼の絵画が獲得 の整然とした構成を台無しに ような理解しやすい「意味

森光理展

タブロー上で重ね合わされて 収められてはいる。だが、と の方であろう。譜面の構造 いるのであると読みとるべき 成し、文字もまた升目の中に かもしれない。 ようとする画面の複雑な構成 しかし、注意すべきはその 画面を升目状に整然と構

の、このような試みの積み重 めの基礎になるはずだ。 ねが、沖縄の美術を考えるた はいささか物足りないもの いた。まずは、県立博物館 美術館での「名渡山愛順展 (10月30日~12月20日)。

名渡山愛順展

強く伝えるものであった。 の成果によるものであり、 日)もまた、そのような研究 倉という異才のインパクトを 紙をよむ 鎌倉芳太郎の14 書・芸術資料館での「紅型刑 14枚」(10月29日~11月8 また、県立芸術大学附属図

家はいわゆる1978年の 伝え聞くところによると、作 較的大きなタブローである。 面上に塗りこまれている、比 らに、さまざまな絵の具が画 しき言葉が重ねて記され、さ 代以前の沖縄と、「復帰」以 である。ならばこの、工工四 指示の文句を導き出したよう と通行指示との共存とは、近 「730」の記憶から、通行

「紅型型紙をよむ一鎌倉芳太郎の 1414枚一」より「流水松鳥模 様白地型紙」

後から今日に至る沖縄とが、 放り込むことで結果的に、 に表明しているかのようであ 単純ではないということを暗 けで理解できるほど、沖縄は 広い色の面、そして円弧をな かにも沖縄らしい「意味」だ 者に困難にさせる。それは、 低減させ、分かりやすい「意 まれた文字の可読性を著しく れらの要素は、画面に書き込 するかのように、何度も塗っ る。言葉という異物を画面に 工工四や「730」というい 味」を読みとることを、見る す線が描き込まれている。こ こは削り取られたかのような

グなどに反映された研究成果 確かであろう。展覧会力タロ の戦後初期における、美術中 正な技量ばかりが先行しすぎ 的に重要な画家であることは ていて、必ずしも優れた画家 試みる二つの展覧会が目を引 与えているのである。 であるとは思わないが、沖縄 美術史的なアプローチを 方、沖縄の美術に対す か、ともあれ「異物」の立ち 見るか、それとも単に今月は を沖縄における美術の停滞と も正直なところだ。このこと きものがなかったというの 金城の個展ぐらいしか見るべ 同時代の美術表現としては、 ローチのほうが目を引いて、 だ、このような美術史的アプ 見るべき展覧会が少なかった だけであると判断するべき 上がる様が存在するのなら

34

逃さないようにしたいもので 月評者としてはそれを見

覇市民ギャラリー、10月27日 ギャラリー、9月29日~12月 27日)、「ウエチヒロ土絵展」 ~11月1日)などがあった。 ~12日)、「高良憲義個展」(那 リウボウ7階美術サロン、6 イヤルホテル2F・ロイヤル 美佐子版画展」(沖縄残波岬口 10月はそのほかに、

(美術批評家·県立芸大講

図らずも漏れてしまう、これ

保守の牙城を担う者の口から

が今という状況なのだろう。

れは芸術と呼ばれるものが当 経済学はさておき、しかしこ

り前のように前提としてき

聞こえるはずのこの言葉が、

士にはノスタルジックにさえ たのだ。ある年代の左翼的人

そう、問題は「想像力」だっ

2009年(平成21年)11月23日 月曜日

像力が欠如していたのです らも何とか答えたという。「想 が失墜したことに狼狽しなが の重鎮たちに問いただしたの ような事態を予測できなかっ の国の女王陸下が「なぜこの に対して、学問としての威信 たのですか」と同国の経済学 今時の金融危機に際し、 彼



高 山田

> 受性という能力である。 た能力でもある。 つまり、

いう、すぐれて「想像力=感

感

開館以来、

〈思い〉の場と

金城満展



体性体験 3 せる

韓、二力、
、
、
、
、
、
、
、 の音』」(2009年 233×480年 ーTripe sugar- Pation 濃、板

さまざまな苦悶の声がわき出 Weetをとはほど遠い、 てくるような、深い闇の奥の を幾重にも重ねた画面は、 事実いずれの作品も、渥色 S

喜眞美術館で金城満氏が個展 侵攻400年」をデーマとし を開いている。それも「薩摩 性」の空間を提供してきた佐

歯とあごを持たなければなら 際の、現実のSugarに対 ぬほど堅い皮を持っている実 葉を幾重にも伸ばし、その甘 想してはならない。むしろ、 ずれにもSugar、もしく い芯の汁をすするには頑丈な 層を傷だらけにするほど鋭い かしこれに甘い心地よさを連 が付けられているのだが、 はSweetというタイトル シリーズと、100号を超す わせるパネルを組み合わせた 人作のシリーズからなる。 感性」が必要だ。つまり皮 実のサトウキビに対する 作品は、トートーメーを思

ない実際の、現実の「具体 像力」によってしか見えてこ 葉にしうる類のものではな た。氏の表現は常にわれわれ いうパフォーマンスを行っ 死者の〈数〉を体験させると その体験はしかし、簡単に言 つに、金銭満氏はこの場で、 る暴行事件をきっかけとした 『石の声』という沖縄戦での 何がしかの体験を強いる。 沖縄の怒り」に共鳴する上 90年代半ば、例の米兵に上 それは、先に述べた「想

=近代を表し、それは名(タ ら飛躍していえば、このS= garとは薩摩、ないし日本 イトル) ばかりのものであ ようにも見える。その印象か

のだが…。 た、別の「想像」を刺激する いるのではないか…。さら また、 呪文のように 縦に 基 怨嗟の歴史がそこに描かれ る、交通法規らしき文言は実 工工四の背後に見え隠れす り、実際の現実、つまり沖縄 (表現された画面)の苦い、 ろうか。 性」のようなものではないだ

を感受しうる想像力だ。 いるのは、そうした「具体性 を体験させること。沖縄に 現実、あるいは歴史を理解し はなく、見る者の側にその「具 像で説明したり、物語るので 過去に起こったことを単に図 つ、世界にしろ今求められる せ、生の「生きられた具体性」 れはつまり、「物語る」とい 体性」を体験させること。そ に気にさせる装置を失効さ つ程よい距離に収まったまま 戦争にしろ、歴史にしろ、

(グループNO同人)

同館、電話0000(000 5737 けがらの音』」は2010年 クが開かれる。問い合わせは で。23日午後4時から、 1月18日まで佐喜眞美術館 iple sugar-氏によるアーティスト・トー 金城温展2009-Tr 金羰

琉球新報

平成21 (2009) 年12月16日

て残されることのなかっ

た、さまざまな人々の思い

王充

王求

亲斤

幸及

でいた。 す筆者にとって、記録とし 々が、さまざまに生きた思 意については、筆者も長年 で耳にした言葉だ。その含 いをイメージすることが大 いけれども、さまざまな人 ポツリと語った。 歴史を叙述することを志 なんだよな」と、ある方 これは先日、とある宴席 記録には残されていた

だかり、悶々とした心持ち の言葉がより大きく立ちは ことだった。とはいえ、そ にわたって考え続けてきた

も、史資料という「史的証 ないからである。というの も、制限つきのものにすぎ 感じられる。そのわけは とても困難なことのように を叙述することは、とても 歴史」の叙述があくまで

わかな 三島

世による人為的な作業を経

て再構成されたものが「歴

である。言い換えれば、後 語ることができるのが歴史 拠」をもってのみ、初めて

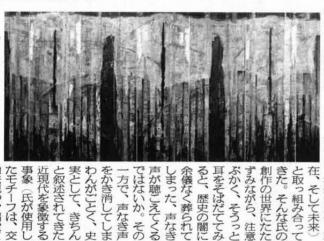
永遠なるとてつもない課題 ねばならない課題であり、

にとって、切実に向き合わ

ながら、史実として確定さ 史」であり、そこには当然

Triple 城 20 9 ぬけが 6 の sugar

時 空越 え心の



ずにいる。そういった過去 多くの出来事が、叙述され れたものよりも、はるかに のことは、歴史をつづる者 ちは、何を根拠として叙述 について、今に生きる私た すれば良いのだろうか。そ

Tr-p-e

suger

源泉は、作家の内なるイマ 関係にあると感じた。芸術 ことは何ひとつない。その 創作において、制限される 歴史と芸術は、相互補完の 芸術は存在する」と、放言 したい気持ちにかられた。 「だからこそ、この世に、 に思われる。 そのような心持ちの中、 た衝動と確信とを喚起させ

氏は常に、沖縄(過去、現 たのは、 aェー『ぬけがらの音』 9-Triple sug である。筆者の知る限り、 在、そして未来 一金城満展200

るのだろう。たとえて言う

いないが、氏には聴こえる は、もはや生命が宿っては なれば、セミの抜け殻に

声が聴こえてくる ると、歴史の闇に 耳をそばだててみ ぶかく、そうっと 創作の世界にたた きた。そんな氏の と取っ組み合って しまった、声なき 余儀なく葬られて ずみながら、注意 目で対話し続ける作家の世 上の陽光を浴び、全身全霊 ささやいたであろう静なる 広がっている。 界観が、そこには、限りなく 越えて往来しながら、心の が…。それは抜け殻であっ で放ったであろう魂の叫び 声が…。そして、ふ化して地 のだ。幼虫のころ、土の中で て、抜け殻ではない。時空を

3) 5737° 年末年始は12月31日、1月 術館で開催。火曜日休館。 まで、宜野湾市の佐喜真美 わせは同館 098 89 1日が休館となる。 問い合 金城満展」は1月18日 究、沖縄県立芸術大学講師

(近代沖縄洋楽受容史研

るのだ。 ない事象についても、芸術 らこそ、歴史では叙述でき ジネーションにある。だか それを体現することができ の力をもって、私たちは、

筆者の心中に、そういっ る。そう感じるのは、筆者ひ 味乾燥な響きを放って とりではあるまい。 としての工工四など)が、無 目には見えないモノや、

するまなざし(センサー 耳には聴こえないモノに対

続けて(張り巡らせて)い を、氏は、いつ何時も注ぎ

琉球新報

平成21 (2009) 年12月22日

の異変を教える重大 な放出で生まれ、体 らの音』」を開催中の金城 なシグナルだそう 内の快楽物質の過剰 場合もあると知った」と話 す。「甘いかゆみ」は、脳 ではなく、重い病が原因の が、最近、それが気のせい ゆみ』。ぼくも時折感じる かよく分からない『甘いか 満さん―写真。 e sugar-『ぬけが 満展2009-Tripl るのは、宜野湾市上原の佐 を感じることがある」と語 喜真美術館で展示会「金城 「心地いいのか不快なの 何でもないのにかゆみ

「甘いかゆみ」

り合った作品が生まれた。

11月23日のアーティスト

四」と書いた工工四、言語

着物を広げた形や「工四乙

で表現した交通標識が重な

沖縄の現状を重ね合わせ、

そうした「かゆみ」と

郭

音や言葉が重なり合う音楽ングの音など、さまざまな日本語やラジオのチューニ日本語やあび、さまざまなじり、英語なまりの平板な

れるわけではないをはせていた。 れるわけではながら、来場者は沖見詰めながら、来場者は沖見詰めながら、来場者は沖

重なり合って消していくだ

けで、何かが構築さ

「ただ言葉の上に言葉が

を流した。

37

沖

夕 1 Δ

ス

年末回顧 県内 6

美 術

佐藤 文彦

揺れ動いた2009年であっ 流れはどのようなものであっ たが、県内における美術界の 政権交代、沖縄問題などで

のような観点からこの一年を 縄の歴史的風土、文化、思想 域であるならば、 役割は人に感動を与え人類共 しとも大事なことと思う。と 様式を世界に向けて発信する つ、万華鏡、のようなものだ。 通の過去、現在から未来へ誘 しこだわり、沖縄独自の表現 方で、沖縄という特異な地 本来、美術または美術館の 懲じて沖

展。昨年末から開催された「美 県立博物館・美術館の企画 れまで断片的な知識しかなか 術家たちの南洋群島」は、こ 的に展示された。これによっ 代背景と作品のルーツが体系 った日本の植民地であった時 まず、開館2周年を迎えた

> 功との関係)が明るみに出 売出 (杉浦佐助や土方久 をのぞかせた。 沖縄美術史の特異な一面 沖縄を代表する儀間比呂

言語・文化」では「移動を

移動と表現
変容する身体 同館の開館1周年記念展

れ、改めて沖縄の多様な表現 渡山愛順展」へも引き継が キナワデザインの現在」「名 宵」展、「琉球絵画展」 | オ させた。以降一豊潤の美を求 その濃厚なコンセプトを感じ 法第九条下における戦後美 中へ・二の沖縄一日本国平和憲 めて一金城安太郎と高畠華 代アーティストの作品を可能 術」展においても、沖縄の現 、喰り展示したことによって アトミックサンシャインの

多様な企画展が多かった。 り、琉球漆器の常設に加えて 「片岡鶴太郎展」などがあ

作品展を展開。また、山城知 展」「大道あや展」「ケーテ 館は開館15周年を迎えた。丸 界に発信している佐喜眞美術 佳子の意表をつく映像作品 ・コルヴィッツ展」など所蔵 不夫妻の「沖縄戦の図」をメ あなたの声は私の喉を通 ンにして「丸木位里水墨画 方、果敢な反戦思想を世

い芸術の流

とよばれた美術村や、沖縄を 米軍占領下におけるニシムイ もわかるように沖縄の特異性 催されたが、このテーマから ティストたちを紹介し、それ 出立し沖縄と向き合い独自の テーマに、沖縄の画家たちが 侵害か、教育配慮かでもめた やアーティストに焦点をあて ていることが明確に出た。 伴うシンポジウムなども開 それはまた、表現の自由の

!?~バリ島影絵芝居の世界~ チューインガムとチョコレー の画家/中島潔の世界展 絵画展」「バリバリーウヤン 風」を中心に」 「吉永ます子 球八景』・『琉球交易港図屏 者たちの存在を知らしめた。 琉球収蔵品展 墓飾北斎 『琉 琉球・沖縄2人展/比嘉康 浦添市美術館の催しでは 一琉球の祭祀/東松照明 in沖縄」「王国時代の 「金城清子絵画展」「風

攻400年を真正面から受け ティストを育てている実験場 展」「金城満展」など、沖縄 止め、年間のテーマを「In の印象がある。今年は薩摩侵 企画が刺激を与えた。 戦とのかかわりを持続させた 喜眞」、「比嘉豊光写真展 ・サンシャインの中へ1m佐 た。を発した「アトミック 流れを模索し沖縄の若いアー 「本シェータ出写 画廊沖縄は、新しい芸術の

> 代償としてさまざまな文化が 的なデーマをえぐり出した。 もたらされた巧妙な搾取 い」砂糖(高価な物の献納の 薩摩支配の象徴として「甘痒 を醸した。 その後マスコミを通じて物議 過敏な反応により拒否され、 かれた「アトミックサンシャ 肖像写真をコラージュした版 抱えて』」では、昭和天皇の を形而上学的な表現法で究極 シンクロナイズ化すること れに琉球音楽の「工工四」を Stall **画ンリーズを発表。本来は** で、沖縄がおかれている状況 示字定されていたが、県の インの中へ・1か縄」での展 月に県立博物館・美術館で開 同画廊ではニューヨーク在 続く「大浦信行展『遠近を [3] e e+400] ti をイメージアップし、 新春に開催された金城満 1609 人統 索している動きが目立つ1年

して、瀬長亀次郎、具志堅甫 時の琉球国王尚寧をはじめど 展「Cut」では、薩摩侵攻 の沖縄での初個展も開催。 住のアーティスト、照屋勇賢

展『ここにいるわたし』」は、 無垢なまなざしからイメージ 沖縄戦時に撮影された少女の で作品できれた。 高、安室奈美恵らが紅型技法 きなキャンバスに隠喩法を用 沖縄戦後の状況を思索し、大 清子ら新しい芸術の流れを模 山城知佳子、照屋勇賢、 の観点からすると、金銭満、 か、どうやれば人の心を引き 究極的には現代の状況をいか かった技巧によって形や色が して、木彫、平面のインスタ つけることができるかを真現 に強く訴えることができる 等り込められてゆく。それは 目身がそれまで思いも及ばな3なのであり、表出直前に作家 出するまでの思考過程が重要 ダイムスギャラリーなど レーションで表現した。 よることにあると思う。そ している作品が見られた。 ほかに、「与儀達治作品展 総じて、芸術においては表

(県立芸大非常勤講師)

400人以上の観客数を数 開かれ、4日間の会期で1 みならず、世代間を超え 果を披歴できる場としての 友達連れで賑わったこと て、あれほどの家族連れや 旦ごろの自己研さんの成

ても良いのでは、という指 潤いと深みを与えるのでは 摘が多くあり、今年の新た 緩やかな参加モデルがあっ 知の体験でもあり、人生に 〈眼差し〉を研ぎ澄ます未 募されたが、沖縄県らし 大会への参加基準を元に公 ないだろうか。今回は全国

する場として、県立博物館 増進と生きがい作りを啓蒙 で第1回沖縄ねんりんピッ ・美術館内県民ギャラリー 昨年の秋、高齢者の健康 モノ作り、その不断の日々 ニーズがあることを証明し は 美術館を利用する潜在的な ている。経験を背景にした 高齢者参加を軸として 苦悶する作家の生気

が問われた1年であった。 人ひとりに自身の立ち位置 間基地・県外移設問題や読 芸術活動に携わる者にも一 谷村ひき逃げ米兵事件など の切迫した問題も重なり、 金城満展2009-T

的に顕された平面の大作がら、これまでの「痕跡の美術館、18日まで)は、視覚身の姿をおぼろげに映しな riple sugar 。ぬけがらの音』(佐喜眞 に箔を貼って現世の光と自 第だ。しかし作画上、下地 の乾いたありさまを例えて いるのかは、受け止め方次

な作案作りが待たれてい 昨年は、薩摩侵攻400 ながら、画面を読みなぞる

月

12

年・琉球処分130年の節 目に当たり、漂流する普天 あった。「ぬけがらの音」と とで、存立へ苦悶する作家 ているのか、脱皮するとき 失した沖縄の現況を比喩し は自決権を失い、制度規制 の生気を感じさせる一枚で 感覚や、音感や味覚などの によってさまざまな生を忘 「共感覚」をも刺激するこ

0」シリーズで意図的に用 あと」や「Sweet40

金城

満

30の交通規制指示書の文 偽らざる率直な心情が伺 いられた工工四の楽譜、7 たこの新作からは、作者の 打つまどろんだ空間となっ え、体内の鼓動で支えた作

T,

ore第18回ショーモン国 ぶ」、児玉美咲展「足元の 麻生佐矢香展「星とあそ

際フェスティバルコンペテ

風景」、「PoemCol

友人の家族を追った写真 月18日まで)は、1986 見だった。 年のフィラデルフィアでの むとき展」の石川真生作品 (県立博物館・美術館、4 フィリーファミリー 基地を取り巻く恋人た 貴方を愛するときと憎

自然と呼応する表情

上條文穂

現場」を投げ込む

石川真生

れる「現場」そのものを特 重ねることで、写真が生ま 川自身の不穏な生きざまを 切る自分がいる」と語る石 別にクールにシャッターを 石川写真。一方「感情とは に、飾り気なく接してきた 奔放、赤裸々でもある表情 基地にまつわる人々の自由 展を待たねばならないが でいるように思えた。 別な関係性の中に投げ込ん その全容は2月下旬の個 ちの姿に、日々、携帯によ

字が溶解し、淡々と拍子を

佐藤薫「Through branches lik e a fence」2009—興立芸術大 学附属図書・芸術資料館

962年当時の「玉陵」保 梁鐘や円覚寺鐘の保存、1 のみならず、戦前の万国津 示だが戦災で消失した作品 るところがあった。写真展 関係を変えたのか一考させ 自身がその眼差しの意味、

変化が反映したのか、画家 ように見えたのも、世相の ろな目線に変わってゆく 間面が欧化され、 どこかう

家の一面を知ることができ 存運動に深くかかわった画

hrough bran

床から倒立する4枚の 豊かさを醸し出していた れる自然と呼応する表情 かり、音や色、においに彩

また版画を志す佐藤薫

んのも収穫になった。

芸術資料館企画展示室では

クリーンを摺るコンセプー

ence」作品はシルクス hes like a

を紙の透かし渡き技法

県立芸術大学附属図書・

きが、アメリカ世で徐々に

女性像の、1946年作品

(同美術館) の描かれた

「郷愁」の前後、終戦後の 時期の眼力のある瞳の輝

執拗に施されているのが

遭うようなノミ跡や彩色いる反面、近づくにつれ

にとどめられる目線が交差 る写真家自身の姿を絡ませ する気がかりな展示であっ って撮りためて持ち運ばれ カメラに向かって写真 玉木 2

條文穂彫刻展、デザイン専

けていた。

のイメージを強烈に印象付

光が〈場〉を作り、ひとつ 感と透ける繊維の織り成す したもので、そのスケール 繊維に置き換えて)で制作 の具をミツマタとパルプの

展」が、常設展示室では上 イッション2009報告

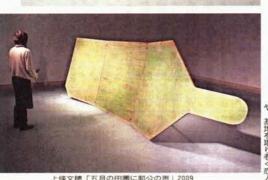
9の作品は、その構造を視 合わせ立てた近作の「五月 覚的に分かりやすく見せて 若草色に塗られ板材を組み 呈郷の詩―」2008の の田圃に郭公の声」200 いで中空設置した作品と、 の板材を極力加工しな

と」が相次いで開かれ、研 究の成果が発表された。 攻崎濱研究室展、佐藤薫展 中でも上條作品の「川 紙のしごと・版のしご うな熱い血潮がうごめき、 世代に受け継がれているの る。金属の塊に魂を込めて ら」を宿らせることができ 生物のように「生きるちか の物体の内にもマグマのよ ージを具現化しているよう3 きた人の想念が営々と次の 鋳造の技の枠を飛び越え に感じられた。冷たい金属 て、生死の往還、そのイメ 興民ギャラリー) も金属 中農洋絵プロンズ彫刻展

慰みにひくことだが、感性 徒弾きとは、琴や三味線を 井真人二人展」(リウボウ 美術サロン)。副タイトル ではないかと思われた。 あだびきへの思い」 終わりに「玉木弘一・平 0

(写真左)と「Double suger」 =佐喜阗美術館 sugar 『ぬけがらの音』」 金城溝「Triple







中農洋絵プロンズ彫刻展―県立博物館 ・美術館県民ギャラリー

サロン 平井真人IYUGAFUニリウボウ美術 玉木弘一の西。コスモス模様」(写真左)と



の作品が示していた。 共有できることを120点

県立芸術大学教授

信濃毎日新聞

平成22 (2010) 年01月29日

を重層的に浮かび上がらせる作品群だ。 在まで、常に自己決定権を奪われてきた沖縄の約400年 琉球侵攻(1609年)から、普天間移設問題に揺れる現 「Sweet400」シリーズを出品した。薩摩藩による 「Sweet400」シリーズを出品した金城満 さん(中央)=沖縄県宜野湾市の佐喜真美術館

自覚される「甘いかゆさ 薩摩支配から基地問題



佐喜真美術館から見えた米軍 普天間飛行場のヘリコプタ の航跡ー沖縄県宜野湾市

れに読み取るのがやっとだ。 の底に深く沈み、とぎれとぎ の歴史が象徴されている。エ 地が固定化されていった沖縄 戦後の米軍統治を経て軍事基 分(内国植民地化)、そして 工四と共に、重ね塗りの色彩 最新作「Triple

れるとき、その異変のシグナ 似た快楽物質が脳内に生成さ を和らげるため、モルヒネに かくことが習慣化すると原

球古典音楽の楽譜「エエ四 縄の人々がこよなく愛する琉 凝らすと、もともと素地には りたくった大小の作品に目を ことに気付く。 原稿用紙の升目が引かれ、沖 顔料や油絵の具を分厚く途 全面に刷り込まれていた

つ佐喜真美術館に、沖縄のアーティスト金城満が抽象画の

米軍普天間飛行場(沖縄県宜野湾市)のフェンス際に立

ければなりません」ー。 の直前で一時停止です」 り事や禁止事項。「重さを測 定する単位と方法」「交差点 してはいけません」 そこに上書きされた、決ま これらの活字には、 薩摩支 ・・・・しな

因を探そうともしなくなる もある」と金城は言う。「心 ちている。しかし肥満や病気 る、と金城。がんなどの苦痛 が、実は重い病気だったりす 動している」 どこかがかゆい。かゆさは、 自覚しようとすると静かに移 地よいのか不快なのか、体の につながり、習慣性や依存性

配や、明治政府による琉球処

や禁止事項の意味さえ伝えて 黄や紺で塗りつぶされ、 品のコンセプトを、金城は「甘 のこととしてしまうほどの、 圧を、沖縄の人々がつい自由 いない。日常化した基地の重 ugarーぬけがらの音」は、 いかゆさ」と表現する。 感覚のまひが画面に漂う。作

らす莫大な富を、薩摩は搾取 移入。サトウキビ栽培がもた 基幹産業ともなった。 琉球王国は中国から製糖法を した。製糖はやがて沖縄県の し蓄え、明治維新の原動力と 薩摩支配下の17世紀前半、 「砂糖の甘みは幸福感に満

民の閉塞感を推し量る上で示 値上がりしていく軍用地代と まく巨額のカネや、毎年必ず れと見返りに国が地元にばら 唆的だ。本来、基地の受ける で得たものではない。 いう不労所得は、沖縄が望ん

和らげる。モルヒネ。を沖縄 の根幹維持のために、痛みを はもはや限界にきている。 きり自覚された今、対症療法 始めた。不快なかゆみがはつ れに対し県民は、県外・国外 に注入する必要があった。こ 地提供という、日米安保体制 の基地移設を積極的に求め しかし国は在日米軍への基

されるという。 ルはかゆみとして神経に伝達 金城の指摘は、今の沖縄県

抽象画の

е

e t 4 0

0